

風紋

vol.74 2022 / Summer

鳥取大学広報誌 FU-MON

特集

農学部附属フィールドサイエンスセンター

現場でしか得られない学びがある



注目の
研究

「民族スポーツ」に宿る地域社会の素顔

私たちの
研究室

医学部保健学科 検査技術科学専攻
生体制御学講座 森研究室

羽ばたく
卒業生

社会で活躍する先輩たちに今を聞く！

教養の場

教養科目「芸術入門(美術史)」

新任教員
紹介

地域学部地域学科 人間形成コース
農学部附属フィールドサイエンスセンター

特集

現場でしか得られない学びがある



おなじみセンターの特徴を
ご紹介しましょう！

やまぐち たけし
山口 武視 副学長
農学部附属
フィールドサイエンスセンター長

「農学部附属フィールドサイエンスセンター」だ。
翌年に附属農場が設置され、組織体制が変遷を繰り返す中で、徐々にフィールドを拡大してきた。
農学には「理論」と「現場実践」の両輪が必要不可欠であるが、その拠点となっているのが

究を高度に実践し、農学部における総合的なフィールド科学、および学術研究の情報発信基地としての機能を担うことを目的としている。既存の附属農場と演習林が統合され、新たなスタートを切ったのは2005年4月のこと。さらに20年4月には、「フィールド教育部門」「フィールド活用部門」「森林管理部門」の3部門に改組された。

FSICには下図のとおり、2つの農場、植生の異なる4つの教育研究林がある。そのうち「湖山農場」はキャンパス内にあり、学生は実習の際、圃場まで歩いていくことができる。「これこそがFSIC最大の特長」とセンター長の山口武視副学長は胸を張る。しかも

森林管理部門



森林生態系を健全に維持・管理する技術教育の推進と、森林の多面的機能の高度発揮に関する教育と研究を行います。

フィールド活用部門



栽培技術の高度化、新品種の開発、農作業の軽労化など、地域が抱える問題の解決に向けた教育と研究を行います。

フィールド教育部門



農業技術・技能教育の推進と、持続可能性を確保するための生産工程管理に関する実践と教育を行います。

広い農場や研究林を活用した実践的な教育・研究の拠点！

農学部棟から西へ延びる坂道を下っていった先、湖山池の湖畔にあるのが、本学「農学部附属フィールドサイエンスセンター」(以下、FSIC)だ。農地や森林などのフィールドを活用した教育と研究

フィールドは新しい何かを見つける最高の学び場

情報通信技術(ICT)やロボット技術を生かしたスマート農業、農作業を軽労・省力化する新しい農業機械、森林の管理、自然や生態系の再生など、農学部ではさまざまな研究開発が行われており、そこでもFSICのフィールドが大いに活用されている。
また地域貢献活動として、地域の子どもたちを対象にした「FSICあぐり

「もう一つの教室」といえるだろう。「農学は現場主義」なんです。教科書の知識だけでは足りないし、現場で起きてないことを研究しても意味がない。疑問もその答えも、新たな発見も、きっとフィールドにある。現場をよく観察して、そこからテーマを見つけるのが基本であり、農学のモットー」と山口センター長は言う。
それでは、この広い教室で新しい体験・発見をしようという学生たちの実習の様子を少しのぞいてみよう。



収穫された作物は毎週火・木曜日、キャンパス内で販売される。大人気につき売切御免!

主な活動フィールド



今回の 実習内容

前回の実習で摘果し
1つだけ残っていたナシの実
に、病気予防のための小袋を
かけます。上を向き、手を挙げ
ての作業は大変。身をもっ
て知るのも勉強です。



「二十世紀梨」の小袋かけ

病害虫を防ぐため、繁
茂した側枝を切って風通しを
良くする「整枝」を行いました。
親茎を150cm程度の高さでカッ
トする「摘心」も。ハウス内は
暑いけど頑張ります。

アスパラガスの整枝・摘心

2年次は手植えでしたが、3年次は実際の農業と
同じように機械を利用した田植
えを体験します。あっという間
に終わり、効率の良さ、便
利さを実感しました。



スマート田植機での田植え作業

全ての農作業に必ず意味がある！

いしい
石井 あゆみ さん 農学部生命環境農学科
植物菌類生産科学コース 3年

私は野菜の栽培・生産に興味があったため、野菜班を選択しました。今日はトマトの栽培管理をやったのですが、誘引では主枝を折ってしまい大失敗！収穫量に影響するので慎重にやらなくてはいけないことを実感し、こうした地道な作業を少人数で行っている農家の方のご苦労も身に染みました。

農業にはたくさんの工程がありますが、一つ一つの作業に理論的背景や意味があります。農具を丁寧に扱うことの大切さも先生方に教わりました。これらの学びをぜひ研究や将来に生かしていきたいと思ひます。

学生の声

トマトの誘引・芽かき

「誘引」は、上から吊してある誘引ひもに伸びた枝を巻き付けて固定する作業。主枝を折らぬよう、花房にかからぬようにするのがポイント。余分な脇芽を取る「芽かき」は、主枝に栄養を送り、収穫量を上げるために行います。

水あげの補助
このように誘引ひもに
巻きつけて



だけでなく、枝葉の成長度合いや色の
変化、花の様子、実の太り方・色付き
といった変化も、五感をフル稼働して観
察してほしい」と鼓舞する。
学んだことは「実習ノート」にまとめ、
学期末に提出する。「ノートは単なる
記録や感想で終わるのではなく、座学
で学んだ知識と照らし、さらには実習
中に気付いたこと、疑問に思ったこと
を自分自身で調べて理解を深めるよ

う指導しています。技術と知識を結び
付けることが何より大事だから」と、
辻准教授はその意義を語る。
終了時間が近づき、作業を終えた学
生たちが続々と本部へ帰ってきた。土や
葉が付いた手足・道具を洗い落としつづ、
体験した内容を話し合い振り返ってい
る。始まる前と比べ、顔つきに少し自信
が垣間見える。学生たちも農作物のよ
うに、ぐんと成長したのかもしれない。

※掲載写真は全て撮影時のみマスクを外しています。



いざ、フィールドへ！

実習に潜入！

種まき〜収穫、流通まで 現場で学ぶ農業の専門的技術



つじ わたる
こんどう けんすけ
近藤 謙介 准教授 辻 渉 准教授
農学部附属フィールドサイエンスセンター

五感を研ぎ澄まして体験し、
知識と融合しながら理解を深める

野菜班の大きな柱は、ハウス栽培の
トマト。「麗容(れいよう)」という大玉
の品種を育てている。苗は180cmほ
どの高さまで成長しており、枝には黄
色い花が咲き、青い実が連なっている。
教員や技術職員が今日の作業内容を
説明すると、学生たちはすぐにメモ。
間違った理解が進めると、収穫量が減っ
たり病害虫が発生したりするから、皆
真剣だ。「この芽は取っても大丈夫で
すか」「うまくできない。どうしたら
いい?」、悩む学生に技術職員が寄り添
い、丁寧に教える。少しずつ手際が良
くなる学生を、担当教員の近藤謙介
准教授、辻准教授も見守り、「作業

択して、毎週のように実習を行う。裁
培から調整、流通にわたる過程を体系
的に実践し、さらに専門的な技能を習
得するのが目的だ。
広さ12ヘクタールの湖山農場では、
トウモロコシやジャガイモ、トマト、キュ
ウリ、ソラマメ、メロン、ナシ、ブドウ、
シロネギ、アスパラガス、トルコギキョウ
など、さまざまな種類の農作物が作付
されており、学生たちが来るのを今か
今かと待っている。

牛舎の和牛は
共同獣医学科の
学生にとって
絶好の教材！

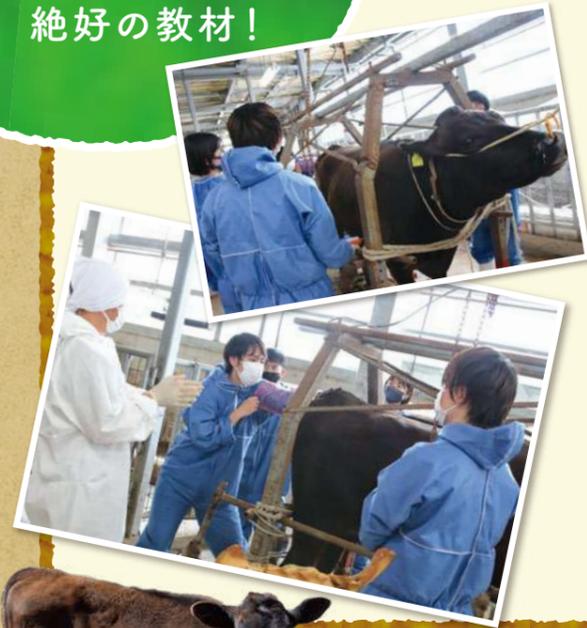
教育活動

研究活動

FSCでは常時約10頭の黒毛和種牛が飼育されており、子牛の生産を営む、いわゆる繁殖農家と同様の生産活動を実施しつつ、主に共同獣医学科の実習に広く活用されています。

1年次の「大学教育導入演習Ⅰ」は、飼料の生産、給餌、飼養形態、安全管理、排泄物の処理技術といった畜産の基礎を実習で学びます。4年次の「臨床繁殖学実習Ⅰ・Ⅱ」では、直腸検査による生殖器の状態確認、人工授精、胚移植、繁殖検診、採血・投薬手技など、繁殖・生産に関わる手技を修得。同じく4年次の「衛生学実習」は、感染症の制御に関わる設備や技術、牛が健康的に活動できる基本的な環境（気温・気動・気湿）について学びます。2年次の「生化学実習」は、生化学的検査の実習材料として牛たちの新鮮な血液が活用されています。

年に数回ある牛の分娩では、牛舎がキャンパス内にあるので有志の学生がすぐに見学・介助の補助に参加することができ、教育効果を高める背景となっています。



まだまだあるよ、

教育活動

研究活動

地域貢献

「蒜山の森」「三朝の森」「伯耆の森」「湖山の森」と、4つの教育研究林を保有しています（2ページ「主な活動フィールド」図参照）。広大な森林面積、樹木や草花、木の実やキノコなど豊富な森林資源を生かして教育・研究活動を実施。本学学生・関係者のみならず、他大学・機関の研究者にも利用されています。

中でも蒜山の森は573ヘクタールと最も広く、植生はコナラ、ミズナラ、ブナなどの広葉樹林。植栽試験地が数多く設置されており、遊歩道も整備。2名の技術職員が常駐し、森林の維持・管理を行っています。中高生が森林教室や林業施業体験に訪れることもあります。

研究施設・宿泊施設があり、厨房・洗濯機・乾燥機完備で長期滞在が可能。食堂の薪ストーブは、実習で割って乾燥させておいた薪を燃やし暖を取ることで林産物の利用学習に。さらには製材施設、シイタケ栽培用ビニールハウスもあり、多種多様な実習で学びを深めることができます。



蒜山の森には
広大な広葉樹林と
豊かな森林資源！
宿泊施設も完備



教育活動

研究活動

地域貢献

鳥取キャンパスから南へ約8km、面積5.6ヘクタールの大塚農場は、1976年に果樹園として開設されニホンナシが栽植されました。2年後の78年には「日本梨開発実験室」を設置、以来本学のニホンナシ研究と栽培技術開発の場として、また学生実習の場として活用されてきました。

現在、14品種のニホンナシを栽培。そのうち「秋栄」「早優利」「爽甘」「瑞鳥」「優秋」の5品種は本学が開発したオリジナル品種で、夏～秋に収穫した果実は市場で販売されています。

また2007年には、鳥取県からの資金提供を受け、農場内に「アジア梨遺伝資源銀行」が併設されました。300種を超える品種木を栽培管理しており、その収集規模は世界的に見てもトップクラス。この遺伝資源を活用すると、地球温暖化に対応したナシの生理生態的特性に関する研究、耐暑性・耐湿性に優れた新品種の育成など、これまでの研究成果をさらに飛躍させることができます。



鳥取県の特産品
「ナシ」に特化した
研究開発・実習地
大塚農場

FSCの「スゴイ！」



地域貢献

地域の小中学生と保護者が一緒に農作物を育て、収穫し、食べることで、農業と食について知る機会となってほしいと毎年「FSCあぐりスクール」を開催しています。家族ごとに割り当てられた畑で、植え付けから収穫までの農作業を体験。水やり、草取りといった栽培管理も可能な範囲で自分でやり、日々の生育状況も観察してもらいます。畑に来られない日があっても、技術職員がフォローするので大丈夫。また、年9回イベントを行っており、田植え、ジャガイモやサツマイモの収穫、梨の食べ比べ、ピザ作り、そば打ち、もちつきなど楽しい企画がいっぱいです。

参加家族からは、「自分たちで作った野菜が食卓に並ぶと、親子の会話が弾む」「収穫だけでなく、苗植えから水やり、施肥、草取りまで全て自分たちでやるから、作物の成長が見えて良い」「子どもたちが食べ物を大切にしたり、野菜を進んで食べたりするようになった」という感想が聞かれ、食育に役立っていることが分かります。



毎年開催！
ファミリーで
農業体験できる
FSCあぐりスクール

注目の研究

「民族スポーツ」に宿る 地域社会の素顔



せと くにひろ
瀬戸 邦弘 准教授
教育支援・国際交流推進機構
高等教育開発センター

専門 スポーツ人類学／文化人類学
趣味 スポーツ観戦／演劇鑑賞

身体を動かして競い合うスポーツ。そこには「勝ち負け」の結果だけでは捉えきれない文化や社会性の意味合いが色濃く潜んでいます。そこで、私は人類学の視点・観点から地域に根付く「民族スポーツ」の世界にアプローチしています。

スポーツ×人類学とは…?

私が専門にしているのは「スポーツ人類学」になりますが、あまり聞きなれない学問領域かもしれません。現在のスポーツ科学研究では、例えばバイオメカニクスで身体の動きを解析したり、栄養学の観点から運動中の身体の変化にアプローチしたり、どちらかという理系の学問を中心に研究が行われていると言えるかもしれません。そこではいわゆるエビデンスを中心に物事を理解し、数値に置き換えることでスポーツという現象を測ろうとしているのです。

一方で、スポーツは文系の学問領域から研究される必要もあります。それは、スポーツという現象が、その存在を挙げ、現代社会を構成する重要な一要素として存在しているからに他なりません。したがって、スポーツは経済や政治などと同じように存在し、哲学や社会学、歴史学、文化人類学などの研究テーマとして扱われるべきものなのです。

では「スポーツ」と「人類学」は、どのように関連しているのでしょうか。それを考える前に、まずスポーツとはそもそも何なのでしょう。一般的にすぐイメージされるのは、野球やサッ

カー、バスケットボール、陸上競技や水泳といった、国際ルールを持ったスポーツです。これらを私たちは「国際スポーツ」と呼んでいます。国際スポーツの最たる祭典はオリンピックやワールドカップですが、そこでの関心事は「勝つか負けるか」のコンペティション（競い合い）であり、その営みに焦点が当たりがちです。

スポーツの中に息づく民俗文化

しかし世界には、国際スポーツの範囲に入らない、スポーツもたくさんあるのです。例えば日本の相撲は、勝ち負けが決まる競技ではあるものの、日本の伝統文化としての背景を色濃く持つ行事・儀式としての側面もあります。

私は学生の時、考古学に興味を持ちエジプトで古代遺跡の発掘調査をしていたのですが、現地の住民と触れ合ううちに彼らが行っている伝統的なコンペティションに、偶然接することになりました。それは当該地域で継承されてきた棒術だったのですが、この棒術は「武」だけではなく「舞」の要素も包含し、また儀礼性をも帯びた存在で、単なる競技や試合ではなく、むしろ「地域文化の複合体」と言ってよい不思議な存在だったのです（写真1）。



写真1 エジプトの棒術「ナブート」

綱引きと応援団 つながりを深め、伝統を未来へ

民族スポーツの中で私が学生時代から注目してきた研究事例の一つに、沖縄県のある離島でカシキリ行事〔注3〕に併せて行われてきた伝統的な綱引き行事があります（写真2）。島内にある地区ごとに藁で雄綱と雌綱を結び、さらにその雌雄の綱を結び付けて引き合う形の綱引きです。

〔注2〕綱結合型とも呼ばれるこのスタイルの綱引きは、古代メソポタミアの



写真2 沖縄の綱引き習俗

神話に起源を持つ「天父地母聖婚説」〔注4〕に基づいて、綱引きに併せて島の老若男女が集まり、伝承されてきた固有の歌を歌い、踊りで盛り立てて応援し、綱引き後には宴を催します。かつて綱の材料となる藁は子どもたちが村の各戸を回って集めていました。つまり、この綱引きは単なる競技性のみで成り立つものではなく、綱引きを通じて地域の人たちが関係を深め合い、複合的な文化を醸成しながら地域コミュニティを形成・維持してきたことがうかがわれるのです。

動は競技そのものではないものの、身体でコミュニケーションを図り、場面ごとにアクションを起こして表現するという点では密接なつながりがあります。また、高校に入学したとき体育館や校庭に集まり、応援団の激励を受けたという人がおられると思います。旧制に紐づく学校では生徒による学校の自治が今でも大切にされており、応援団による激励はその象徴で、新入生に対して成長と仲間づくりの通過儀礼の意味合いを持っています。

このような研究から、スポーツを通して私たちが社会の中で学び合い共に成長していこうとする、過去から未来に続くスポーツ文化を核にした共生の姿を見ていこうと考えています。

〔注1〕メタバース

コンピュータやコンピュータネットワークの中に構築された、3次元の仮想空間やそのサービス。

〔注2〕アバター

インターネット上で自分の分身として使われるキャラクターのこと。

〔注3〕カシキリ行事

旧暦6月25日に行われる農作の豊穡と感謝、次年の豊作を祈念する諸行事。

〔注4〕天父地母聖婚説

天は父で地は母。天と地が1年に1度交わって、天から光や雨が降り注ぎ、それで大地は身ごもって年の実りが保証されることになるという概念。



写真3 國學院大学の応援団

スポーツ人類学では、このような地域文化に根差して行われているコンペティションのことを「民族スポーツ」と呼んでいます。世界各地で行われている民族スポーツを見ると、それは、それぞれの地域の人たちのアイデンティティーや自分たちの生活、生きていくことの意味そのものを再確認・認識したり発見したりする表象の一つになっただけで、人類学を学ぶ上での重要なヒントがたくさんあることが分かってきました。そしてもう一つ重要なのは、スポーツは生身の身体を動かして行われるということ。このIT時代にあっても、そこには仮想のメタバース〔注1〕にもアバター〔注2〕にもない、「実体」が確かに息づいているということなのです。

Research



もり てつじ
森 徹自 教授 医学部保健学科検査技術科学専攻

“最後のフロンティア”の解明に臨み ミクロの世界から医療の可能性を広げる

脳は「人体に残された最後のフロンティア(未開拓の分野)」と呼ばれています。脳がどう機能して、私たちは話したり、考えたり、記憶したりできているのか。その構造が理解できれば将来『鉄腕アトム』のような、自分で考え、感情を持って行動するロボットを開発することができるかもしれません。

ヒトの脳は、大脳、小脳、脳幹などに分かれています。それぞれが互いに情報をやりとりしながら一つの脳として働いています。そのやりとりの道筋を一つ一つ調べていくのが「神経解剖学」です。しかし、脳の構造はとても複雑で、例えば一情報のやりとりでも、その道筋を全て解明するのは困難を極めます。そこで、複雑に出来上がってしまう前から脳の構造を見ていこうというのが「神経発生学」です。

マウスとヒトは、大きさはかなり異なりますが、脳の基本的な枠組みが驚くほどよく似ています。マウスを使って、完全に成熟する前の胎児の脳の状態を観察し、脳の構造の解析に取り組んでいます。

また、脳や脊髄などの神経細胞は、発達期を過ぎると一生、生まれ変わることなく、傷ついても二度と再生することはないと考えられていましたが、近年、脳内の側脳室周囲や海馬で新しい神経細胞(ニューロン)が生まれてくることが確認されています。ニューロンが生まれるシステムを解明することで、病気や事故などで機能不全となった神経細胞を新しい神経細胞に置き換えて身体機能の回復につなげることはできないか。ミクロの世界から医療の可能性を広げています。



私たちの
研究室

医学部保健学科 検査技術科学専攻

生体制御学講座 森研究室

担当教員 森 徹自 教授

01 学生の研究
Pick up

神経細胞新生のメカニズムを探っています

おおた れい
大田 麗さん 大学院医学系研究科 医科学専攻 博士前期課程2年



ヒトを含むさまざまな動物の脳内にある側脳室周囲の「脳室下帯(SVZ)」では、神経幹細胞が分裂増殖を行うことで、嗅球の神経細胞が継続的につくられていることが確認されています。その仕組みを胎児のマウスから大人のマウスまで時系列的に観察し、神経細胞新生のメカニズムの解析を進めています。神経幹細胞の分裂増殖は、周囲にある

神経細胞から放出される神経伝達物質によって調節されています。神経伝達物質と神経細胞新生との関係について詳細に検討しています。

SVZでの神経細胞新生のメカニズム解明により、再生不可能とされる脳領域での神経再生の可能性を探り、今後の再生医療の発展に貢献することを目指しています。



神経細胞の発生過程解明を目指します

よしだ りょうた
吉田 亮太さん 大学院医学系研究科 医科学専攻 博士前期課程1年

02 学生の研究
Pick up

胎子の神経細胞は、長い突起を持った「放射状グリア」と呼ばれる幹細胞から生まれます。放射状グリアは、まず神経細胞を生み出した後、グリア細胞を生み出します。一方で、大人の脳室下帯に存在する神経幹細胞は、放射状グリアの子孫細胞ですが、長い突起を持ったものや、短く細かな突起を持ったものなど、形が違うものがあります。また、大人の

神経幹細胞から生み出される細胞は、ほぼ全て嗅球の神経細胞です。

一般的に、形が違えば機能も違ってきます。胎子と大人の神経幹細胞はもちろんのこと、大人の神経幹細胞の間でも機能が違っていると考えられています。形態の違いと機能の違いに注目して、脳がどのようにして成り立つか、解明しようとしています。



病気を見抜く目を持つ検査のスペシャリストを育てる



＼直近5年以内の/
卒業生の主な進路

国立病院機構中国・四国グループ、兵庫県立病院、神戸市民病院機構、恩賜財団済生会支部岡山県済生会岡山済生会総合病院、日本赤十字社益田赤十字病院、第一岸本臨床検査センター、JA広島総合病院、公立八鹿病院、飯塚病院、加古川市民病院機構加古川中央市民病院、倉敷中央病院、三豊総合病院、大阪府立病院機構

皮膚や内臓、骨など、さまざまな器官からなるヒトの身体は、数十兆個という膨大な数の細胞でつくられているという。医療現場で患者さんの状態を把握し、診療計画を決めるために欠かせないデータを提供する臨床検査技師を目指す学生たちは、その膨大な数の細胞の正常な状態をよく理解しておくことが求められる。なぜなら、正常な状態を知らなければ、病気などが発生した状態を即座に見抜けないからだ。

生体制御学講座には、生理学や生化学、情報科学、環境衛生学などを専門とする教授らが所属しており、医学部保健学科検査技術科学専攻の学生が1~2年次に、臨床検査の基礎となる専門知識や技術を習得する。森教授は解剖学を担当する。

実際に人体を解剖して筋肉や臓器を観察する「肉眼解剖」に対し、人体の一部から組織標本をつくり、顕微鏡を使って細胞の状態を確認するのが「組織学」という。組織学において、多様な器官を構成する数十兆個の細胞はなんと、たったの4種類に分類されるという。しかしその違いは、たくさんの標本を観察し、それぞれの細胞の特徴を捉える目を養わなければ見えてこない。実習と研究を通じて、正確な診断と適切な治療を支える検査のスペシャリストを育てている。

地域学部



PROFILE

よしの さえ

吉野 紗恵 さん

米子ガイナックス株式会社 勤務
(クリエイター)
地域学部地域学科
国際地域文化コース 令和2年度卒業

アニメの作画・キャラクターデザイン、ゲームのイラスト制作・企画、自社主催イベントの撮影・配信に携わっています。

私

は、2DCG「※」と鳥取民話に興味があったため、「アニメなどの日本型コンテンツで、地域を盛り上げる仕事をしたい」と考えていました。就職活動中、米子市で地域活性を目標に掲げたアニメ会社がスタッフを募集していることを知り、「ここでなら自身のスキルが活かせるのでは」と応募したのが、米子ガイナックスに入社したきっかけです。一度は諦めた絵の道ですが、鳥取大学で芸術文化を学ぶ仲間と過ごした4年間で私の背中を押してくれました。



※2DCG
2次元コンピュータグラフィックス

画技術だけでなく、情報収集が必要不可欠です。入社して1年、さまざまなコンテンツに触れて、ものの見方が大きく変わりました。視野の広がりが実感できる時が、この仕事のやりがいの一つです。引き続き、サブカルチャーの力で地域を盛り上げていく活動に尽力していきます。

工学部



PROFILE

なかむら かずま

中村 数磨 さん

ニプロ株式会社 勤務
(研究開発職)
大学院工学研究科機械宇宙工学専攻
平成29年度修了

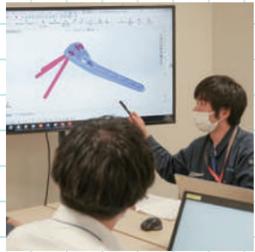
私は現在、整形外科分野の機器開発を行っています。主な業務として設計・開発および試験のデザイン、実施に取り組んでいます。

私

学中、認知症患者へのタッチコミュニケーションロボットの研究を行っており、特にCADを駆使したロボットの設計・製作に注力しました。入社後もその経験を活かし、開発品の設計と試作を主にしています。

「検討」→「設計・試作」→「評価」というサイクルを繰り返している、問題解決と開発を進めていくことは、鳥取大学の基本理念である「知と実践の融合」に通ずるものだと、卒業後初めて気付きました。今後は自身のスキルアップを図り、世の中に貢献できるような医療機器を創造していきたいと考えています。

開発を進めるため、医師や取引先と何度も打ち合わせを行う中で、専門知識だけではなく多様なコミュニケーションの重要性を改めて認識しました。双方の意見をくみ取り、より良い開発品を目指し形にしていくことは難しくもありませんが、一つずつ形にしていくことはとてもやりがいを感じる瞬間です。



卒業生から「メッセージ」が届きました。 社会で活躍する先輩たちを今を聞く!



医学部



PROFILE

おおさき ゆうき

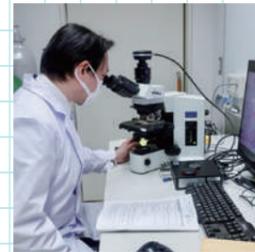
大崎 雄樹 さん

北海道立札幌医科大学 勤務
(教授職)
医学部生命科学科
平成10年度卒業

医学部組織学、解剖学教育を試行錯誤しつつ、基礎医学研究ラボを立ち上げ中です。

私

は鳥取大医学部生命科学科卒業、ならびに同大学院を修了後、名古屋大学でのポストドク、教員時代を経て、令和3年9月より札幌医科大学医学部解剖学第一講座の新米教授として、教育と研究に携わっています。



鳥取時代にも劣らぬ豊かな北海道の食材のおかげで増えてしまった脂肪をどうするか悩んでおりますが、大学時代からの脂質代謝研究を新しいラボの皆で発展させ、自分も含めた人々の健康に寄与する基礎研究を展開していきたいと考えております。また一方、コロナ禍から脱

農学部



PROFILE

あみたに ゆうた

網谷 祐汰 さん

倉吉家畜保健衛生所 勤務
(農林技師)
農学部共同獣医学科
令和3年度卒業

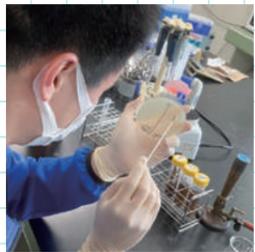
鶏における高病原性鳥インフルエンザやサルモネラの検査のほか、家畜の病理解剖などを行っています。

私

が公務員獣医師を志望したのは、大学4年生の時のインターンシップでした。それまでも実習で何度か訪問したことがありましたが、インターンシップという少人数だからこそ体験できることが多くありました。業務内容に加えて職場の雰囲気なども良く、大変働きやすい環境が整っていると感じました。

格しましたが、実際に現場で働くことができるか不安がありました。しかし、周りの方々が非常に優しく丁寧に教えてくださるため、とても恵まれた環境であることを実感しています。今後は、日々の業務から得られる知識や技術の一つ一つ身に付けていきたいと考えています。

家畜保健衛生所では、家畜の伝染病予防や病気の原因究明のための検査等を行っています。私は働き始めてから1カ月程度であり、まだ仕事に慣れることができていません。また、国家試験には合



新任教員紹介

MEET OUR NEW TEACHERS

令和3年4月に鳥取大学に着任しました。私の専門は、特別支援教育学で、特に視覚障がい教育、重度・重複障がい教育を中心に研究をしています。私は新潟県出身で、令和3年3月まで千葉県の特別支援学校の教諭として31年間勤めてきました。特別支援学校では、知的障がいや肢体不自由だけでなく、視覚や聴覚に障がいのある、さまざまな子どもたちや保護者の方々と過ごしてきました。子どもたちは表情やまなざし、声、動作等で自分の気持ちや学びの様子をたくさん伝えてくれます。また、目の使い方や身体の動かし方に加え、教材の大きさや色合い、文字サイズやフォントの選定等、とても大切なこ

障がいのある子どもたちから学ぶこと



鳥取大学着任日：2021年4月1日

地域学部地域学科 人間形成コース

わたなべ まさと

渡邊 正人 講師

専門 特別支援教育学
視覚障がい教育、重度・重複障がい教育

趣味 トレーニング／ガーデニング

とをいろいろと教えてくれます。鳥取大学では特別支援教育の教師を目指す学生の皆さんが、子どもたちの「表情や行動の意図性」を大切にしながら実践的で即戦力のある教師になれるよう、一緒に取り組んでいきたいと考えています。鳥取では、大山や木谷沢溪流周辺等のトレッキングを楽しんでいます。山や木々を眺めたり、川のせせらぎや野鳥の声を聞いたり、自然を満喫しています。鳥取の地を大切に思い、地域の方々と連携しながら、これからの特別支援教育に携わっていきたくと考えています。



鳥取大学着任日：2021年4月1日

農学部附属 フィールドサイエンスセンター

やまなか けいすけ

山中 啓介 准教授

専門 育林学

趣味 DIY／農林作業／砲丸投げ

森に入ってみると新たな発見がある

本学大学院農学研究科を修了後、鳥根県職員として試験研究、あるいは林業普及などの行政に25年間携わってきました。令和3年4月から農学部附属フィールドサイエンスセンター森林管理部門に着任しました。森林や林業の重要性は多くの人々に認識されてきていますが、その管理や利用についてはさまざまな課題を抱えています。そうしたことから私は、森林の育成技術や管理方法に着目して研究をしています。とくに、松くい虫被害を受けた海岸クロマツ林、管理が遅れて荒廃したスギやヒノキの人工林、人工林の伐採跡地といった、「劣化した森林の再生」を主なテーマとしています。

同じような森林であっても、よく調べてみると立地する環境や利用の歴史などによって非常に多様なことが分かります。そして、森林が荒廃すると経済的な損失だけでなく、私たちの生活環境も脅かされることになります。森林や林業に関する研究は探求心を刺激するだけでなく、私たちの生活に深く関わってくるため、非常にやりがいのある仕事です。森林は、机上の学習だけでは理解することができません。学生の皆さんには、さまざまな森林に足を運んでもらいたいと思っています。そして、森林の面白さや難しさを感じ取ることができるようになってもらいたいと思います。

教養の場

現代社会で 生きる力を磨く

豊かな教養と幅広い視野を備えた
素敵な大人になるための
「**全学共通科目**」を
ピックアップしてご紹介します。



【講義で紹介した絵画】
ジャン＝レオン・ジェローム
《ピュグマリオンとガラテア》
1890年 88.9×68.6cm
油彩、カンヴァス
メトロポリタン美術館所蔵

教養科目 芸術入門(美術史)

本講義では、古代ギリシアからルネサンスまでの西洋美術の歴史を扱います。絵画、彫刻、建築を中心に美術の変遷をたどるとともに、神話や宗教、社会背景についても解説していきます。また、視覚的な情報を読み解く「ビジュアル・リテラシー」を培うことを目指します。



担当教員

つつい ひろき

筒井 宏樹 准教授

地域学部地域学科 国際地域文化コース



受講した学生の声

もりたいが

森 太我さん

農学部共同獣医学科 2年

● この授業を選んだ理由は？

私は高校時代に触れてこなかった美術を学んでみたいと思い、多様な観点から学べると思った「美術史」の含まれている「芸術入門」を選択しました。

● 授業を受けた感想は？

多種多様な美術作品に時代背景がどのように表現されているのか、時代ごとにおける特徴的な表現技法といったものが非常に興味深く、印象に残っています。また、現代の漫画やアニメ等も美術作品として捉えた先生のお話はとても面白く、今後の作品鑑賞における視点が増えたと思います。

美術作品を見て、どのような印象を抱いたことがありますか。「きれいだ」「上手だな」「心が揺さぶられるな」「よく分からないな」と思ったことがあるかもしれません。本講義では美術作品を分析するアプローチやその背景を学ぶことで、一見の印象だけにとどまらない、より踏み込んだ鑑賞を目指します。西洋絵画では、描かれたモチーフに意味が込められていることがあります。例えば「仮面」が描かれていたら、それは西洋文化の約束事として「偽り」を意味します。逆に言えば、「偽り」という目に見えない抽象的な概念は、「仮面」を描くことで視覚化されているのです。恋愛

が成就した瞬間を描いた幸せそうな絵画だとしても、背後に「仮面」が描かれていたら、その恋が偽りであるという画家のメッセージを示唆します。つまり、絵に込められた意味を読み解くと、当初の印象とは真逆の内容になることがあるのです。視覚的な情報は私たちの感性に訴える作用を持ちますが、それ自体がとても理論的に作られていることがあります。街中やSNSなどを見ても、私たちの身のまわりには視覚的な情報があふれています。本講義では、こうした視覚的な情報を読み解く「ビジュアル・リテラシー」を培っていきます。

美術作品は感性に訴えるだけでなく、論理を宿す

中海・宍道湖一斉清掃に医学部学生がボランティアとして参加

2022.6.12



毎年地域活動として実施されている「中海・宍道湖一斉清掃」に医学部学生教職員合わせて138名がボランティアとして参加しました。この一斉清掃は、ラムサール条約に登録されている中海・宍道湖の環境保全を目的に山陰両県の沿岸5市が連携して行っている活動です。昨年は新型コロナウイルスの影響で規模を縮小して行われましたが、今年は3年ぶりに例年どおりの形で開催されました。

医学部では、キャンパス美化や環境保護などに取り組む「クリーングリーン運動」を推進しており、その活動は学内にとどまらず周辺地域まで範囲を拡大し、地域の活動に積極的に参加しています。

鳥取大学グローバル人材育成教育プログラム基礎力養成コース修了者へ認定証を授与

2022.6.6



鳥取大学グローバル人材育成教育プログラム(以下、「TOUGHプログラム」という)の基礎力養成コースを修了した3名の学生(藤田理子さん、稲垣良哲さん、北村亜依香さん)に認定証を授与しました。TOUGHプログラムは、2012年度に文部科学省に採択された「経済社会の発展をけん引するグローバル人材育成支援」により2016年度に本学が構築したプログラムです。

同コースは、定められた単位の修得や対象科目のGPA条件の達成、「グローバル活動ポイント(国際交流、外国語習得等に関する活動)」の獲得、TOEICスコア条件の達成など厳しい修了要件が課されています。今回で累計15人目の修了者となりました。

旧鳥取高等農業学校校舎案内板設置記念式典を実施

2022.4.19



本学農学部的前身である旧鳥取高等農業学校(旧高農)の校舎が保存されている株式会社LASSIC様の本社敷地内(鳥取市南吉方)で、案内板設置記念式典を行いました。旧高農校舎は1921年に建築され、昨年で100周年を迎えました。鳥取大学への移行・大学キャンパス移転等を経て、本館玄関部分のみが残され、現在も有効活用されています。建築100周年を機に、同校舎の歴史的価値等を広く周知する事業として鳥取県から補助金を受け、農学部同窓会と農学部が協働して、旧高農校舎の概要や現存時の校舎の写真等を紹介する案内板を旧高農校舎前に新設しました。

関連サイト: 農学部同窓会▶

<https://www.toridai-nougakudousou.com/history/>



WHAT'S NEW?



大学の動き

在学生の活躍や大学の取り組みなど、鳥取大学の最新情報をご紹介します。

新たな鳥取大学PR動画を公開

2022.6.16



鳥取大学の魅力を広めるため、新たな鳥取大学PR動画を作成しました。多くの方に興味を持っていただけるよう、現在人気上昇中のお笑いコンビ「ハイツ友の会」にご出演いただいております。

「ハイツ友の会の鳥取大学でどんなとこ?」と題して、今年度中に1本5分程度の動画を12本作成し、毎月1~2本のペースで順次本学公式YouTubeチャンネルにて公開していく予定です。各学部や学食、課外活動など、本学のさまざまな魅力を紹介していきます。ぜひご覧ください。

「ハイツ友の会の鳥取大学でどんなとこ?」
①鳥取大学でどんな大学?
<https://youtu.be/jEoKTNJxLoQ> ▶



ビサヤ州立大学(フィリピン)とのオンライン調印式を挙行

2022.6.15



フィリピン共和国のビサヤ州立大学と学術交流協定の締結調印式を行いました。長引くコロナ禍で海外渡航が規制される中、web会議で行う初めてのオンライン調印式となりました。農学部の森本英嗣准教授が、約25年前から親交のある現ビサヤ州立大学副学長のTan Daniel教授とスマート農業の栽培モデル構築の共同研究を行っており、今回の協定締結に至りました。

調印式では、両学長がそれぞれ協定書にサインをし、画面上で並んで記念撮影を行いました。今後、両大学は教職員、研究者、学生の交流や共同研究の協力等、学術交流を促進していきます。

農学部附属菌類きのこ遺伝資源研究センターの研究課題が文科省「ナショナルバイオリソースプロジェクト」に採択

2022.4.28



文部科学省令和4年度「ナショナルバイオリソースプロジェクト(第5期)」の中核拠点整備プログラムに、本学農学部附属菌類きのこ遺伝資源研究センター(FMRC)の「きのこ類菌類資源の収集・保存・提供」が新規採択されました。このプログラムでは、FMRCが保有している1,800種9,100株を超える世界最大級の「菌類きのこの遺伝資源」を基盤として、きのこ遺伝資源の収集、保存、分譲と情報提供を実施する中核拠点機関としての整備を行います。

今後は、きのこ遺伝資源を使った研究を通じて、新品種、医薬品、安全な生物農薬、そして機能性材料などの開発が考えられ、「きのこ王国とっとり」の取り組みの推進にも貢献することが期待されます。

学生生活支援物資の受贈式を実施

2022.4.21



「県内大学生の生活支援に貢献する取組み」として、県内JA(JA鳥取いなば様・JA鳥取中央様・JA鳥取西部様)およびJA共済連鳥取様から本学学生へ、鳥取県産米「星空舞」(2kg×800袋)が昨年に引き続き寄贈されることとなりました。寄贈にあたり、4月21日(木)、目録の受贈式が行われました。

受贈式では、中島学長から影井克博様(JA鳥取いなば代表理事組合長ならびにJA共済連鳥取運営委員会会長)へ感謝状が贈られ、中島学長からは、「経済的に困窮している学生、不自由な思いをしている学生にとって直接支援となり大変ありがたい。大学としても地域の温かい気持ちを受け止め、教育・研究活動に一層励みたい」と、お礼の言葉が述べられました。

2021年4月
リニューアル
オープン

大学からのお知らせ

INFORMATION



自然と調和したカフェテリア アエル&アエルミー

今月は2021年4月にリニューアルオープンしたアエル&アエルミーをご紹介します！
こちらの店舗は緑溢れる森の中に射す太陽の光と、清々しい空気をイメージしたお店です。
オリジナルワンプレートメニューが人気で、毎日300人以上の方が利用しています。

新しい“食”にアエル

ハラルメニューで食文化体験！
温かい弁当をテイクアウト！
デザートも充実！



アエルの特徴

- コロナ禍の中、鳥取大学の協力を頂きながら、食事を提供する場をリニューアルオープン。
- オリジナルのワンプレートメニューを提供しており、ちよっぴり贅沢できる食事と空間づくり。
- 店内には鳥取県産の智頭杉を用いており、“鳥取県の魅力・仲間・食事”の3つに出会える(アエル)。

仲間と出アエル

さまざまな形の机や色の椅子！
今日はどこで食べようかな？



※撮影時のみマスクを外しています。

鳥取の魅力にアエル

店内には鳥取県産の
智頭杉を使用！



アエルミーの特徴

- ドライブスルー方式で屋外にいなながら、テイクアウト弁当の購入が可能(コロナ対策万全)。
- ホットショーケースを用いているため、いつでも適温の食事を提供。
- 現在はポテトやから揚げなどのホットメニューも充実。



営業時間
(平日のみ)

Aero(アエル) 11:00~13:30
Aero me(アエルミー) 10:30~13:30

紹介動画を配信中です▶
<https://youtu.be/9iNRuRksTj0>



【お問い合わせ】メール honbu@toridai.coop TEL.0857-28-1100(平日10:00~17:00)

人気メニューランキング

<p>1位 から揚げエイト</p> <p>から揚げが8個盛り付けられた大定番メニュー。1日に100食以上を提供する日も！</p>	<p>2位 ジャンボたらカツ</p> <p>約30cmのフライを中央にドーンと盛付け。ほろほろの白身が最高の一品！</p>	<p>3位 ローストビーフ</p> <p>60分で80食完売を記録した幻の一品！高級感のある非日常を学内でご賞味あれ！</p>	<p>4位 ガーリックシュリンプ</p> <p>パンチのあるエビと滑らかなアボカドサラダで午後の勉強も頑張れること間違いなし！</p>
--	---	---	---

編集後記

EDITOR'S NOTE

本号では「現場でしか得られない学びがある」と題して、本学教職員・学生が教育・研究で活用している農学部附属フィールドサイエンスセンター(FSC)を特集しました。実習中に取材でお邪魔しましたが、汗を流しながら作業に取り組む学生の皆さんはとてもし生き生きとしており、真剣な表情、笑顔に緩む表情など、たくさんの素敵な表情をみせてくれました。誌面を通して学生の皆さんの素敵な表情を読者の皆様へお届けできていましたら幸いです。

また前号より最終ページに、読者アンケートに掲載の希望が多かった食堂の紹介を掲載しております。今号は昨年4月にリニューアルオープンした「アエル&アエルミー」を紹介していますので、ぜひご覧ください。

今号も多くの皆様のご協力のもと、無事に風紋を発行することができました。ご協力くださった皆様、誠にありがとうございました。そして読者の皆様、今号の風紋はいかがだったでしょうか？プレゼントが当たったアンケートがございましたら、ご意見をいただけますと幸いです。最後までご覧いただきありがとうございます。

Circle Activities

創部4年目を迎えた、部員34名のサークルです。現在は毎週火・水・木曜日の16時半〜19時、21時の3部と、土曜日の10時〜13時、15時〜17時の4部に分かれて活動し、第4月曜日に部会を行っています。部員同士は仲が良く、和気あいあいとしていて、先輩・後輩関係なく楽しく過ごせるくらい雰囲気がいんですよ。

普段は実戦を意識した試合形式でかたるたを取る練習をしています。未経験から始める部員も多いのですが、たくさんのお大会に出て成績を残し、段位・級位を上げています。昨年入部した医学部の部員は、1年間で何もない「無段」のところから2つ段位を上げることができました。また、昨年鳥取で初めて開催された「第1回競技かるた初段認定鳥取大会」では、13人中9人が段位を取得する



部長
のむら ちよ
野村 知世さん
地域学部地域学科
地域創造コース 3年



※決まり字
ある字句まで読まれるとその札であることが確定するもの

という功績を残しています。

競技かるたの魅力は、年齢や性別、体格差など関係なく一緒に戦えるところだと思います。大会に参加すると、大学生と小学生と一緒に対戦していることもありま。また、札を覚えるときの記憶力や戦略を考えるときの知力、札を取るときに瞬発力のように、必要な要素が1つではなく、さまざまな方向から強化できることも魅力の一つです。

個人競技という特性上、部員それぞれ目標を達成できるように活動することがサークルの目標です。決まり字(※)を覚えるだけでも試合で有利になり、面白さを感じることもできるので、ぜひ競技かるたの世界に入ってみませんか？

学生広報スタッフがインタビュー!! サークル紹介 競技かるたサークル



就活の早期化とインターンシップ



ここ数年、理数系の学部・学科を中心に、夏期インターンシップに参加する学部3年生や修士1年生が増えています。これは、学生が職業研究や企業研究に対し、より早い時期から取り組み始めた表れ、と言えます。つい最近、日本政府(文部科学省・厚生労働省・経済産業省)の「インターンシップをはじめとする学生のキャリア形成支援に係る取組の推進に当たっての基本的考え方」が改正され、現在の大学2年生からは、一定の基準を満たすインターンシップで得られた学生情報を企業は選考活動に活用できることとなりました。従って、今後ますます、インターンシップは就職活動の一環として位置付けられるようになると思われます。

企業は、インターンシップを通じて参加学生に事業内容や社風を少しでも理解してもらい、採用におけるミスマッチを回避したいという思いで実施しています。従って、参加する学生さんは、臆することなく対等の立場で積極的に臨んで下さい。また、学生にとって学業(専門科目の習得)が第一ですので、必要以上にインターンシップに時間を割かず、バランスを取るようにして下さい。

さて、季節が秋へ移りますと就職活動の解禁を意識し始め、そこに向けた準備に取り掛かっていくこととなります。就活では、企業へのエントリー(エントリーシート等の書類提出)の準備として、深い自己分析と企業・業界研究が求められます。自分のことは自分が一番よくわかっているのでしょうか？そして、そのイメージは友人や親族など、身近な第三者の目に映るものと一致しているのでしょうか？他人から客観的に見た自分を知ることも重要です。

コロナ禍で学生生活を過ごした皆さんの中には、同級生や先輩、先生方との対話が少なく、就活に不安を感じている方がいらっしゃるかと思います。もし一人で悩んでいるようでしたら、出来るだけ早くキャリアセンターに来て、相談員さんに相談して下さい。就職活動は傍から見ているとその流れの速さが分かりにくいものです。流れに乗り遅れることが無いよう、早めの準備に取り掛かりましょう！キャリアセンターはどの学年であっても、どんな相談であっても“welcome”です!!

就職情報

JOB HUNTING INFORMATION





読者アンケートにご協力いただいた方へ
プレゼントが当たる!

今後のよりよい誌面作りのために、皆様からのご意見やご要望をお待ちしています。アンケートにご協力いただいた方の中から抽選で5名様にプレゼントを進呈いたします。

アンケートのご回答はこちらから

プレゼント応募締切 | **10/31(月)**

※ご記入いただいた個人情報はプレゼントの発送以外には使用いたしません。また、当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。



とりりん
キューピー
ストラップ

合計
5名様

地域と共に未来を築く **70th**
since 1952
100年へ

K **こおげ建設株式会社**

〒680-0463 八頭郡八頭町宮谷200番地2
Tel:0858-72-0029 / Fax:0858-73-0668
<https://www.koge.co.jp>

匠の業×IT技術

ライフイベントにぴったりの一着を



<https://goodhill.co.jp>
GOODHILL 株式会社 **グッドヒル**

人と技術をつなぐ、感動ファクトリー

自動機・省力化設備製造の専門企業



HARD & SOFT
株式会社 **鳥取メカシステム**
TOTTORI MECHASYSTEM CO.,LTD.

代表取締役 林 正太郎
所在地 鳥取市若葉台南7丁目1番31号
TEL: 0857-52-6009
FAX: 0857-52-6010
URL <https://torimeka.jp>
E-mail info@torimeka.jp

測る、創る、診る
～技術で地域を支えます～

鳥取・倉吉・米子を拠点に
測量・調査・設計から維持管理まで



西谷技術コンサルタント株式会社
Nishitani Engineering Consultant Co.,Ltd.

風紋のバックナンバーは、こちらから
www.tottori-u.ac.jp/fumon

鳥取大学広報誌 検索

鳥取大学に関するお問い合わせ

- 入学試験 0857-31-5061
 - 公開講座・社会貢献 0857-31-6777
 - 授業料納入 0857-31-5029
 - 研究・産官学連携 0857-31-5608
 - 学生・学生生活 0857-31-5053
 - 学生就職支援 0857-31-5456
- その他はホームページ <https://www.tottori-u.ac.jp/ask/> をご覧ください



編集発行 / 広報委員会広報誌編集専門委員会

2022年8月発行

會見 忠則 (委員長・農学部) 小野 達也 (地域学部) 鱒岡 直人 (医学部) 塩崎 一郎 (工学部)
辻 涉 (農学部) 滝波 稚子 (教育支援・国際交流推進機構) 保坂 理和子 (研究推進機構) 藏田 修一 (総務企画課)

〒680-8550 鳥取県鳥取市湖山町南4-101 TEL.0857-31-5006 FAX.0857-31-5018
[E-メール] toridai-kouhou@ml.adm.tottori-u.ac.jp [ホームページ] <https://www.tottori-u.ac.jp/>